



パキスタンから川崎に来て出会ったもの

アールシュ・アアリー・ラウフさん

(パキスタン出身)

アールシュ・アアリー・ラウフさんは、日本で暮らし始めて7年目の20歳。平成23(2011)年、中学2年生のときに来日。進学した県立川崎高校で入った書道部では、平成27年度の「かながわ部活メンバーシップ賞^{*1}」を受賞しました。現在は看護学校2年生です。

将来の夢は看護師ですか。

将来は助産師になって、日本で生活するムスリム(イスラーム教徒)の女性たちの出産をサポートし、家族が離れ離れにならないようにしたいです。妊娠したとわかると、出産のためにそれぞれの母国に帰国するムスリムの女性たちにたくさん会いました。それは、日本にムスリムの女性の出産や入院をサポートできる環境が少なく、日本では宗教上の理由から安心して出産ができないからです。例えば、出産に立ち会うスタッフは医師を含めてすべて女性であること、入院中の食事や赤ちゃんのミルクなど「ハラールフード」(イスラーム教で許された食べ物)の準備、服装やお祈りなどの慣習への理解や配慮も必要です。

今は、多くのムスリムの女性たちが出産前から帰国して、生まれた子どもたちがあがる程度大きくなるまで母国にいるため、約2年間家族が離れ離れになるのです。そんな家族がこれ以上増えないように、そして出産を望む様々な人たちのために、私は日本で助産師になりたいと思っています。

看護学校の勉強はいかがですか。

入学した当初は、勉強が難しく2年生になれると思っていませんでした。実習



のレポート、患者さんの様子やコミュニケーションの内容と病気に関する正確な情報を、誰が見てもわかるように日本語で書くことは本当に大変です。今は、注射の技術を覚えるのが課題のひとつです。

今でも書道が続けていますか。

はい、時々書道アプリでもやっています。書道は、来日した中学2年生のとき、授業で書き初めをしてから好きになりました。高校の書道部では熱心な顧問の先生との出会いに恵まれ、書道を通して漢字も覚えられたし、なにより、友だちが増えました。3年間でいろいろな賞に応募して受賞したり、卒業直前には「かながわ部活メンバーシップ賞」に選ばれて驚きました。

いただいた賞状を見て、困難を乗り越えたことや頑張ったことを思い出しては自分を励ましています。書道という日本文化が身近にあったことは、高校の時も私の支えです。



書道以外に好きなことはありますか。

歌が好きです。あと、スポーツも。パキスタンではクリケットをやっていたので、日本ではクリケットに似ているソフトボールやハンドボール、それからバレーボールにも挑戦しました。フェイスペインティングとか写真も好きです。いろいろな人と交流しながら、人の笑顔を撮影することが楽しいです。時間があれば、パラグライダー^{*2}に挑戦したい!

いろいろなことに対する興味と勇気があるのですね。

不安もありますが、できるかできないかはやってみなければわかりません。たとえ失敗してもいいと思っています。

なにごとにも挑戦する勇気を与えてくれたのは私の父です。日本に来たばかりの頃、日本語もわからないし友だちもなくて、パキスタンへ帰りたいと父に言ったとき、「1回、自分のベストを尽くしてみよう」と励まされました。それから勉強を頑張っけて県立高校に受かってからは、挑戦することが楽しくなりました。将来もいろいろなことに挑戦してみたいです。



インタビューの最後に、「パキスタンの友だちに川崎のことを伝えるとしたら」とお聞きすると、「川崎はとても好きです。困った時に助けとなる人や情報との出会いがたくさんあります。私はそう伝えます」と笑顔で応えてくれました。

(取材・文: 編集ボランティア 正一 努)

※ 1 かながわ部活メンバーシップ賞

神奈川県教育委員会主催「かながわ部活ドリーム大賞」のひとつ。部活動の活性化につながる取組を積極的に行った団体・個人(県内中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校)に対し、神奈川県教育委員会教育長から表彰を授与するもの。(神奈川県HPより)

※ 2 パラグライダー

スポーツ用に開発された四角いパラシュートを地上で開き、斜面を利用して滑空するスポーツ。